

金鳥桂華

Kinboku Kibukiku

生誕120年記念



梅の雪(部分)大正10年

2012年

7月7日(土)～9月30日(日)

- 入館料 一般 600円 (500円) 高校生 400円 (300円) 小・中学生 300円 (250円)
()内は20名以上の団体料金
- 休館日 月曜日(祝日または振替休日の場合はその翌日)
- 開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

展覧会初日《7月7日》の記念イベント

- ◆美術講座 14:00～15:30 ※聴講無料
「美術館ボランティアの理念と実践
～美術館と利用者との支え合い・学び合いの場として～」
講師 大原美術館 主任学芸員 鬼本佳代子 氏
- ◆七夕のお茶会 10:00～16:00 ※要茶券

公益財団法人 タカヤ文化財団
はな とり
華鶴大塚美術館

金鳥桂華



1



2



3



4



5



6

1. 富士 昭和2年頃
2. 緑陰 昭和14年頃
3. 百合花 昭和13年頃
4. 九阜双鶴 昭和35年頃
5. 筍 昭和29年
6. 台湾写生人物三題 (シランノカン・老婆・ユミンパット) 昭和7年

このたび華鶴大塚美術館では、近代日本画壇を代表する花鳥画家として知られる金鳥桂華の生誕120年を記念し、彼の画業を紹介する特別企画展「金鳥桂華 生誕120年記念」を開催いたします。

金鳥桂華(本名・金鳥政太)は、明治25(1892)年に広島県神辺町に生まれ、19歳のときに京都画壇の巨匠・竹内栖鳳の門に入り、徹底した写生と厳しい自然観照をもとに院体風の清雅な品格を加え、近代日本画壇のなかでも特に端正なフォームを基調にした厳格な花鳥画世界を確立しました。

本展では、当館の300点を超す金鳥桂華作品の中から、四条派の流麗さと中国宋元期の院体風の精密さをあわせもつ初期作品から装飾性を加えた明快な画面へと変化を見せる晩年までの日本画作品と、創作の原点とも言える素描をあわせて展示し、金鳥桂華の70年近くにおよぶ画業を顧みます。「一点、一筆、一彩」、ひたすら天地自然の神秘なる生命の実相に肉薄しようとひた押しに写生に取り組んだ桂華芸術の真髄に触れていただければと思います。



井原鉄道「子守唄の里 高屋駅」下車……………徒歩1分
岡山方面より山陽自動車道 笠岡ICから……………約30分
福山方面より山陽自動車道 福山東ICから……………約30分

はな とり 公益財団法人 タカヤ文化財団
華鶴大塚美術館

〒715-0024 岡山県井原市高屋町3-11-5 TEL.0866-67-2225 FAX.0866-67-0200
<http://www.takaya.co.jp/hanatori/museum.html> E-mail hanatori@fib.takaya.co.jp